

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：35405

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580046

研究課題名(和文) 中世近世薫物文化の文献学的研究 「新作薫物」の発祥と実相、史の変遷を中心に

研究課題名(英文) Philological Study on Takimono Culture during Medieval and Modern Times in Japan: The Origin, the Ultimate Reality and the Historical Transitions on Shinsaku Takimono

研究代表者

田中 圭子 (Tanaka, Keiko)

広島女学院大学・総合研究所・研究員

研究者番号：20435051

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：室町時代から江戸時代までの公武上層社会における香文化のうち、薫物(たきもの)文化について記述した文献を調査研究し、薫物の製法の考案と相伝に関する史実及び伝承を収集、整理して検証した。これにより、薫物文化の中世から近世までの実相と、奈良時代以降の史の変遷の解明に努めました。特に、室町時代以降に行われたとされる「新作薫物」(平安時代以来の伝統的な薫物とは材料、趣向、名称の異なる新たな種類の薫物)の発祥と実相、史の変遷について、研究期間内に精査した文献の内容から跡付けるとともに、江戸時代前期の上層社会に薫物の流派の存在した可能性と、主要な流派の特徴について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I researched articles about the culture of Takimono or incense-burning in the overworld of Imperial Court and Shogunate from the Muromachi era to the Edo era. I collected the historical facts and the traditions concerning Takimono, which were about compounding and inheritance of that, then I analyzed those texts. By those research activities, I elucidated the remarkable side and the historical transition of Takimono from the Medieval times to the early modern times. Especially, I proved the existence and the peculiarity of 'Shinsaku Takimono' or newly-born fragrances by the method of the philology. Shinsaku Takimono is new kinds of Takimono which began to appear in the Muromachi Period. Takimono of this sort was different from the brand and tradition maintained from the Heian Period on. In addition, I pointed out the possibility that there was the school of Takimono in the overworld during the first half of the Edo era and elucidated the characteristic of the main school.

研究分野：日本文学

キーワード：薫物 香 新作薫物 秘伝書 流派 薫物書 日本の伝統文化 香文化

## 1. 研究開始当初の背景

日本の薫物文化については、日本古典文学の分野を始めとして、書誌学、医薬・本草学、ならびに日本文化史学などの分野においても、それぞれの「周辺領域」として研究されてきた。例えば、鎌倉時代以降に成立したとされる『源氏物語』の古注釈書では、物語本文の解釈や登場人物の推測した実在の人物、或いはその薫物の流行した時代といった事柄の推定と検証に役立てられてきた。これらの勅物は、後世の注釈書にも継承され、近代以降の注釈書や学術研究論文の中でも、通説として尊重されている。

一方で、『源氏物語』からも、後世の薫物文化に少なからぬ影響が及ぼされている。例えば、『原中最秘抄』と同時代の建長年間以前に類纂されたと伝わる薫物の伝書「焼物（たきもの）調合法」には、薫物の芳香や効能について説くくだりにおいて、先行する薫物の伝書の説と並んで『源氏物語』梅枝巻における薫物の描写が引用されている。また、それらの伝書に処方と記載された薫物の種類は、同じ梅枝巻に名前があがったものが大半を占める。『源氏物語』は、作り物語として読み手の嗜好に影響を及ぼすとともに、薫物の道における理想的な指標、いわば薫物の根本を解き明かす言説として珍重されるようになり、伝書の中に教義として取り入れられ、後の薫物文化を方向付けた可能性が推察されるのである。

王朝古典文学作品の表現及び内容は、室町時代以降に新たに考案されたと伝わる種類の薫物（以下、「新作薫物」と称する。）の、処方内容及び名称にも影響を及ぼした可能性がある。室町時代の文化人は、香道のいわゆる名香や茶道具の呼称の主題を、日本古典文学作品の表現に求めたことが知られている。足利義政の東山山荘で開催された名香合と薫物合の詳細を記録した書と伝わる『五月雨日記』によれば、新作薫物5種類の名称もまた歌詞から採られたと云う。新作薫物の文献上の初例は、文明10年（1478）年開催されたこの薫物合と見なすことが、通説として行われている。江戸幕府の開祖徳川家康の蒐集品の中にも、新作薫物数種類の銘と処方が報告されている。

『五月雨日記』の書誌と内容には不明な点が多く、十分な史料性を備えているとは言い難い。そもそも新作薫物については、上記の伝書や研究成果の他に、発祥時期や銘の由来、文化としての変遷を詳しく検討できるような資料研究成果が、残念ながら提出されて来なかった。ただし、研究代表者による研究開始前の調査において、『五月雨日記』に記載のある薫物合の実施以前に考案されたと伝わる新作薫物数種類を載録する文献を確認していた。

また、通説には、薫物文化が室町時代に隆盛した香道と入れ替わるようにして衰退したと考えられてきたが、近年の本間洋子氏

（『中世後期の香文化；香道の黎明』、2016年）及び研究代表者（『薫集類抄の研究；附・薫物資料集成』、2014年）による研究により、室町時代以降も皇室及び公武の有力者を中心に愛好、珍重され続けたのであり、平安時代には無かった新たな種類が考案されて継承されるなどの文化的発展を遂げた可能性の高いことが明らかになっていた。

## 2. 研究の目的

室町時代から江戸時代までの公武上層社会における香文化のうち、薫物（たきもの）文化について記述した文献を調査研究し、薫物の製法の考案と相伝に関する史実、伝承を収集、整理、検証することにより、薫物文化の中世から近世までの実相と、奈良時代以降の史変遷の解明を目標とした。特に、室町時代以降に行われたとされる「新作薫物」（平安時代以来の伝統的な薫物とは材料、趣向、名称の異なる新たな種類の薫物）の発祥と実相、史変遷について、研究期間内に精査した文献の内容から跡付けるとともに、江戸時代前期の上層社会に存在したと伝わる薫物の流派の系譜と特徴を明らかにすることに努めた。

研究代表者は、『薫集類抄』を始めとした平安時代後期から室町時代後期までの薫物の伝書の資料研究と成果発表に努めてきた。これまでに検討してきた資料の大半は、伝統的な種類の薫物を主体とした類纂であり、新作薫物について記述した伝書の資料研究や内容の検討したことはほとんど無かった。ただし、上記の研究の参考資料として、室町時代中期から江戸時代中期までに皇族、貴族、武士により類纂ないし書写されたと伝わる100点以上の文献の本文を収集し、新作薫物119種類の処方と調合法を載録する本文データの入力と集積してきた。これらを新作薫物の研究の資料的基盤として精査、構築し直すことにより、新作薫物の全容解明に向けた一歩としたい考えであった。

## 3. 研究の方法

平成26年度には、主として専修大学図書館菊亭文庫及び東京大学史料編纂所蔵徳大寺家本並びに京都大学附属図書館菊亭文庫に収蔵される貴重書の、閲覧及び書写又は撮影又は複写等による資料収集調査を実施するとともに、収集資料の全文ないし要所の積文を作成した。これらの積文の内、薫物の処方や調合法については、薫物書データベース（仮称）に入力して段階的にテキストの精査及び内容分析を行った。

また、薫物書の伝承に記載される江戸時代以前の人物の関歴に関する資料調査及び史跡等の踏査も行い、新たな業績の発掘と検証に努めた。

収集資料及びそれらの分析結果に基づいて、所属学会におけるポスター展示や所属研究会における口頭発表、学術研究論文の執筆を

行う等、研究成果の公開による社会との対話の実現に努力した。これらの内、所属学会におけるポスター展示に際しては、和文及び欧文による配布資料を作成し、海外からの来場者や日本語を母語としない参加者にも積極的に配布及び説明を行って、薫物という日本の伝統文化についての情報提供と認知度の向上に努めた。

平成 27 年度には、昨年度に引き続き、専修大学図書館、東京大学史料編纂所、京都大学附属図書館に收藏される近衛家及び今出川家関係の貴重書の閲覧及び書写又は複写といった方法による資料収集調査を実施し、全文ないし要所の釈文を作成して電子データ化し、構築中の薫物書データベースに蓄積することにより、テキストの精査と内容分析を行った。

平成 27 年度の成果は、所属研究会における口頭発表、所属研究会等の刊行する学術研究誌における論文発表という形で公開した。また、広く社会に向けて成果を還元する目的から、多様な分野の研究者及び市民を対象としたアウトリーチ活動として、所属学会及び関連分野における国際研究集会での成果物のポスター発表も積極的に実施した。ポスター展示会場では、香炉を用いる等して、研究協力者により復元された新作薫物の香りを来場者が鑑賞できるようにした他、復元した薫物の詳細について詳しく解説した和文及び英文の配付資料も配布して、日本の薫物文化の歴史と実相についての体感的かつ詳細な理解が可能になるよう努めた。

平成 28 年度には、京都大学附属図書館に收藏される今出川家関係の貴重書の調査研究を前年度に引き続き実施して成果を論文化するとともに、研究期間中に収集した薫物書の釈文を引き続き薫物書データベースに搭載して、テキストの精査と内容分析を行った。

以上の活動の他に、薫物書の伝承に記載される江戸時代以前の人物の閲歴に関する資料調査及び史跡の踏査も引き続き行い、実在の人物の薫物に関する新たな業績及び人脈の発掘と検証に努めた。

研究の進捗状況は3年間を通じておおむね順調であったが、研究計画を立案した当初には予想できなかった事態により、次の2件の計画の変更及び延期を余儀なくされた。第一に、最終年度に計画していた海外所属学会における成果発表については、期間内に開催された大会の趣旨に本研究の方向性及び成果が合致しなかった為、これを補完する目的から、昨年度及び今年度国内において開催された国際研究会において、研究成果に基づき復元した薫物の現物を展示して来場者に実際に触れていただきながら成果についての紹介及び質疑を行う、ワークショップ形式でのポスターセッションを実施した。第二に、本補助事業の内定と時を同じくして69件154点の新出資料の所在が明らかにされたこと

から、構築中の薫物書釈文データベースに大幅な拡張の必要が生じた。これらの新出資料の調査研究及びデータベースへの入力には数年にわたる活動計画及び予算を要することから、本研究に継続する形で新たな研究計画への公的資金の助成を申請中である。

#### 4. 研究成果

平成 26 年度には、構築中の薫物書データベースに新たに収集した処方及び調合法のデータを搭載して検索範囲を拡張することにより、秘伝書間のテキストの比較検討精度の向上及び特定事項の検出の迅速化を図ることができた。これにより、特定の処方や調合法の流通経路について従来以上に多様な時代性と来歴を伴う文献から跡付けることが可能になった。

平成 27 年度には、薫物書の伝承に記載される江戸時代以前の人物の閲歴に関する文献調査及び史跡踏査も行い、新たな業績の発掘と検証に努めた。収集資料は前年度に引き続き構築中の薫物書データベースに搭載した。また、産業界で薫物を含む芳香剤の研究開発及び継承に取り組む香化学の専門家、及び中学校教育の現場において科学研究に取り組む理科教諭及び理科系の学問に関心を持つ生徒に協力を依頼して、火薬を含有する新作薫物の復元及び試用を実施した。以上の取り組みにより、江戸時代前期の上層社会に薫物の複数の流派（「勅方（流）」、「三条流」、「中院流」等と呼ばれる。）と宗匠が存在した可能性を示唆する文献について報告することができた。また、室町時代から江戸時代にかけて流行したと見られる、火薬を配合した新作薫物の復元と公開（使用の様子は映像にて展示した。）も実施して、薫物文化の実相及び多様性を実証的に確認することができた。

平成 29 年 3 月末現在で、構築中の薫物書データベースには、薫物の処方 1,203 点、及び薫物の調合法 922 点、及びその他記述 64 点を登載することができた。

薫物書データベースを活用することにより、特定の人物の氏名や略称を検索値に設定して関係するとされるテキストを検出したり、特定の香具をある一定の分量により配合した処方を検出したりすることができる。これにより、薫物の文献に精通していなくても、ある処方の正統性の検証や先後関係を含む影響関係の解明等が可能になった。研究期間中に発表した学術論文及び口頭発表の論旨の構築は、既にこのデータベースを活用して行っている。

構築中の薫物書データベースは、現在確認中の新出資料の閲覧調査及び釈文データの登録が完了し次第、段階的に公開したい考えである。これにより、古代から近代にわたる薫物文化の実相と史の変遷について文献学的に跡付ける為の研究資源として社会に還元することが叶えば幸いである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 【雑誌論文】(計 7 件)

田中圭子, 「巖島御室任助入道親王と薫物 薫物秘伝書における「御室」ゆかりの秘方秘説を中心に」, 『巖島研究』, 第 13 号, pp.11-24, 2017, 査読無, 依頼有

田中圭子, 「薫物文化の実相に照らした『源氏物語』の薫物の特徴 古典籍の触読時における参考として (1)「えひの香」及び「えひ香の香」について」, 『古写本『源氏物語』触読研究ジャーナル』, 第 2 号, pp.11-34, 2017, 査読無, 依頼有, [http://genjiito.sakura.ne.jp/touchread/?page\\_id=936](http://genjiito.sakura.ne.jp/touchread/?page_id=936)

田中圭子, 「京都大学附属図書館菊亭文庫所蔵「江戸下向雑々覚」翻刻と脚注:附「江戸下向雑々覚」人名家名等解説及び索引」, 『薫物書の研究』, 第 3 号, pp.1-106, 2016, 査読有, <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hju/metadata/12165>

田中圭子, 「カレントトピックス: 新作薫物 と平安文学 春に萌え、秋に仄く香りたち」, 『アロマリサーチ』, 63, pp.52-53, 2015, 査読無, 依頼有, <http://www.fragrance-j.co.jp/book/b209750.html>

田中圭子, 「カレントトピックス: 藝州巖島ゆかりの人物と薫物 受け継がれる王朝のみやび」, 『アロマリサーチ』, 64, pp.66-67, 2015, 査読無, 依頼有, <http://www.fragrance-j.co.jp/book/b213752.html>

田中圭子, 研究余滴, 「新作薫物 と平安文学」, 『むらさき』, 第 51 輯, pp.79-83, 2014, 査読無, 依頼有

田中圭子, 「京都大学附属図書館菊亭文庫所蔵「薫物秘蔵抄」翻刻; 附・薫物秘蔵抄 人名家名等解説」, 『薫物書の研究』, 第 2 号, pp.1-97, 2014, 査読有, <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hju/metadata/12069>

### 【学会発表】(計 10 件)

田中圭子(資料執筆・展示), 米倉綽(資料英訳), 熊谷直久(薫物復元), 交流広場(フリースペース)展示, 「藤原公任の薫物 京都大学附属図書館菊亭文庫所蔵「薫物秘蔵抄」載録「後徳大寺左府書」逸文より; Takimono Created by Fujiwara-no-Kinto

Based on Gotokudaiji-Safusho (Unknown Documents Written by Gotokudaiji Senior Official) Recorded in Takimono-Hizosho (Takimono Precious Extracts) Included in Kyoto University Library Kikutei Edition」, 中古文学会春季大会, 平成 28 年 5 月 21 日,

22 日, 早稲田大学

田中圭子, 「芸州巖島ゆかりの人物と薫物 受け継がれる王朝のみやび」, 広島大学文学研究科附属内海文化研究施設第 36 回季例会・公開講演会, 平成 28 年 6 月 27 日, 広島大学

田中圭子(資料執筆・展示), 米倉綽(資料英訳), 熊谷直久(薫物復元), 交流広場(フリースペース)展示, 「藤原公任の薫物 (二) 京都大学附属図書館菊亭文庫所蔵「薫物秘蔵抄」載録「後徳大寺左府書」逸文より」; Takimono Created by Fujiwara-no-Kinto (Part- ) Based on Gotokudaiji-Safusho (Unknown Documents Written by Gotokudaiji Senior Official) Recorded in Takimono-Hizosho (Takimono Precious Extracts) Included in Kyoto University Library Kikutei Edition」, 中古文学会創立五十周年記念 平成 28 年度秋季大会, 平成 28 年 10 月 22 日, 23 日, 大阪大学

田中圭子(資料執筆・展示), 米倉綽(資料英訳), 熊谷直久(薫物復元), ポスター発表, 「藤原公任と薫物の伝承; The Tradition of Takimono Connected with Fujiwara-no-Kinto」, 国際日本文学研究集会, 平成 28 年 11 月 19 日, 20 日, 国文学研究資料館

田中圭子, 「浮舟巻の「つゝみふみ」と『花鳥余情』勅物 古註釈書に伝わる薫物の贈答様式について」, 古写本『源氏物語』の触読研究会, 平成 28 年 12 月 9 日, 国立民族学博物館

田中圭子(資料執筆・展示), 小山雅之(薫物復元協力), 米倉綽(資料英訳), 熊谷直久(薫物復元), 交流広場(フリースペース)出展, 「新作薫物 と平安文学 春に萌え、秋に仄く香りたち」; Takimono Created by Fujiwara-no-Kinto Based on Gotokudaiji-Safusho (Unknown Documents Written by Gotokudaiji Senior Official) Recorded in Takimono-Hizosho (Takimono Precious Extracts) Included in Kyoto University Library Kikutei Edition」, 中古文学会春季大会, 5 月 30 日, 31 日, 白百合女子大学

田中圭子(資料執筆・展示), 米倉綽(資料英訳), 熊谷直久(薫物復元), 交流広場(フリースペース)出展, 「藝州巖島ゆかりの人物と薫物 受け継がれる王朝のみやび; Historical Figures and Takimono which are Closely Associated with Itsukushima Island in Hiroshima Miyabi or Elegance the Dynasty Pursued through Fragrance from the Heian Period to the Early Modern Period」, 中古文学会秋季大会, 平成 27 年 10 月 24 日, 25 日, 県立広島大学

田中圭子(資料執筆・展示), 小山雅之(薫物復元協力), 米倉綽(資料英訳), 熊谷直久(薫物復元), ポスターセッション,

「新作薫物 と平安文学 王朝の言葉とこころを具現化した香りたち」；Shinsaku-Takimono and Literature in the Heian Period The Fragrances which Embodied the Words of the Thoughts in the Dynasty」，国際日本文学研究集会，平成27年11月24日，25日，国文学研究資料館  
田中圭子（申請代表者），米倉綽（資料の英訳），熊谷直久（薫物調合），交流広場（フリースペース）出展，「新作薫物 と平安文学 中世近世の香りがめざした王朝のみやび（欧文タイトル：Shinsaku-Takimono and Literature in the Heian Period Miyabi or Elegance the Dynasty Pursued through Fragrance from the Medieval Period to the Early Modern Period）」，中古文学会秋季大会，平成26年10月11日，12日，京都女子大学

田中圭子，「京都大学附属図書館菊亭文庫所蔵「薫物秘蔵抄」について 今出川公規の合香活動と秘伝書を中心に」，古典研究会，平成26年12月20日，県立広島大学広島キャンパス

#### 〔図書〕(計 0 件)

#### 〔産業財産権〕

#### 出願状況(計 0 件)

#### 取得状況(計 0 件)

#### 〔その他〕(計 5 件)

田中圭子・招待講演(ワークショップ)，「薫物体験：肥前鍋島家と薫物 霊元天皇勅作「黒方」と「玉椿」の香りを楽しむ」，地域学シンポジウム，2017年5月14日，佐賀大学地域学歴史文化センター，小城鍋島文庫研究会

田中圭子，招待講演(ワークショップ)，「源氏物語の香りを体験！～和の香りでおい袋をつくろう～(2)」，視覚・聴覚障害者交流コーナー合同ワークショップ，2016年12月8日，新宿区社会福祉協議会

田中圭子，招待講演(ワークショップ)，「源氏物語の香りを体験！～和の香りでおい袋をつくろう～(1)」，視覚・聴覚障害者交流コーナー合同ワークショップ，2016年11月21日，新宿区社会福祉協議会

田中圭子，招待講演(ワークショップ)，「日本伝統の香「薫物」と平安文学～お香の調合と薫き合わせ体験～」，ピースセミナー，2016年8月3日，広島女学院大学，<http://hjukokusai.blogspot.jp/2016/08/2016.html>

田中圭子，招待講演(ワークショップ)，「香り名人の百人一首の歌人・藤原公任の香りを再現する」，点字付百人一首～百星の会，2016年7月16日，新宿区社会福祉協議会

## 6. 研究組織

- (1) 研究代表者  
田中 圭子 (TANAKA, Keiko)  
広島女学院大学・総合研究所・研究員  
研究者番号：20435051
- (2) 研究分担者  
なし
- (3) 連携研究者なし  
なし
- (4) 研究協力者  
熊谷 直久 (KUMAGAI, Naohisa)  
鳩居堂製造株式会社・社長  
米倉 綽 (YONEKURA, Hiroshi)  
京都府立大学・名誉教授